

諸橋晋六著「学徒出陣壮行会で『その時が来た』と実感」じゅん刊「世界と日本」 1126

内外ニュース社 2008年11月1日刊を読む

私は、ともかく軍服を着た軍人として終戦を迎えた経験から、普通の人よりは強く「平和」を語る立場であるのかなと考えています。

太平洋戦争の敗戦から今日まで、日本はいちども戦争に巻き込まれていません。朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク紛争...など、世界には何度も戦火が起きています。多くの国の人々が戦争で亡くなっていますが、日本は直接戦争に参加しなくてすみ、平和を満喫しています。

もちろん、断固として、戦争は回避されなければなりません。今この瞬間でも、世界のどこかでは、紛争や戦争があり、人も死んでいるという事実、そういう国際情勢について、日本の若者はもっと知るべきだと思います。そうでなければ、例えばアジアの国々の人達と「平和」について語るときの障害になるでしょう。

だから、日本の若い世代の人達には、ぜひとも日本の近代史、現代史をよく学んでほしいと願っています。

#### [コメント]

「国際情勢」を知り、「平和」を考え、語ること。そのために、日本の近代史、現代史をよく学ぶこと。その通りと私も考える。

- 2009年3月7日林明夫記 -